

皆様、こんにちは。

府中教会、アンドレアです。

今日の福音の箇所は、二人の弟子がエマオへの道でイエスに出会い、エルサレムへ戻った直後の話です。この二人の弟子は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明して下さったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合いました。この二人の弟子が興奮して事の次第を話していたまさにその時、イエスが十一人の弟子たちの目の前に現れたのです。

そしてイエスは、私たち皆が望むことをして下さいます。イエスとその命について述べられている箇所を、一節一節丁寧に示し、聖書を理解できるように導くのです。イエスにとって、ご自分の復活は、神とその民との継続した関係性の一部でしかなかったのです。それは人間の歴史の分岐点でした。イエスをご自分を信じる者に、命と信仰について教えたことは永遠に信頼できるものであることを証明したのです。イエスの復活は、この「神の救いの歴史」における素晴らしいクライマックスなのです。

イエスは、弟子たちが本当にイエスが死から復活したことを受け入れることが出来るよう、どのように手助けしたのでしょうか。イエスは自分が現実であることを示すのに、非常に行動的でした。イエスを信頼するのに、何が助けになるでしょう。イエスが生きていて、今日私たちの間におられる、という私たちの信仰を築いたものは何でしょうか。イエスは弟子たちを「これらのことの証人」(48節)として描きます。彼らは目撃者なのです。今日私たちはどのような方法で証人になることができると思いますか。

